

よりよい未来への一步を願って

1980年代は私の人生の中で様々な写真を見ることのできた貴重な時間であったと今、振り返っています。写真家の夫のアシスタントとして、アフリカの飢餓地帯やアジア、アフリカそして中米での難民問題、インドでのマザー・テレサと「愛の宣教者会」の活動、そして仏教の軌跡をめぐるアジアの旅などです。そこで心に刻み込まれたことが現在の自分を形成していると思います。

若かった私は、難民など歪みが生んだ問題もマスコミが報じ、世界がより豊かになることで少しは改善すると考えていましたが、21世紀になっても紛争などの被害者は増え続けています。ロシアのウクライナ侵攻で、人間の欲望が戦争を引き起こし、ごく普通の若者が破壊と殺戮をエスカレートさせていく人間になることを世界は今、リアルタイムで見えています。起こるはずのないことが、人々の無関心や無知を利用すれば現実になるのです。膨大の数の犠牲者の写真が訴えかけてくるアウシュビッツの壁の前で、異様な空気に包まれた記憶が蘇ります。

これを機に、世界の人々が、よりよい未来に向けての一步を踏み出してくれたら、と思います。特に若者にはオンラインより、新聞や本を開き、文字の行間で考える時間を作ってほしいです。自身の可能性や視野を広げるためにも未知の世界を自分の足で歩き、人々と交流する経験をしてください。一生心に残るはずです。ウクライナでの衝撃で陰に隠れたミャンマーの友だちの、「情勢は悪化しているばかりで、良いことはひとつもありません。・・・」のメールが他人事ではなく心に届きます。世界だけでなく、日本にも問題は山積みです。心の眼を問題に向けて一步踏み出しませんか。

学びとは、知識とは、自分のためだけでなく、他の人々や世界のためにできることを考えること、これは人間が引き起こした問題を目の前にして私はずっと考えてきたことです。

2022年4月 小林(溜池)玲子